研究の概要

１　研究の目的

道徳科において，児童生徒を見取る視点を明確にし，話合い活動を充実させることで，自他ともに大切にする児童生徒を育てることができるのか，授業実践を通して研究する。

２　本校区の特色

推進地域名	江田島地域		
推進校名	校長名	児童生徒数	備考
江田島市立江田島中学校	喜多村　昭宏	１５６	センター校
江田島市立切串小学校	竹本　泰隆	５１	
江田島市立江田島小学校	加藤　靖則	２２３	

江田島中学校区は江田島市の北東に位置し，二つの小学校(切串小学校，江田島小学校)と一つの中学校（江田島中学校）からなる。本校区の２小学校から中学校はそれぞれ３ｋｍ～６ｋｍ程度離れた場所に位置している。学校教育目標を，切串小学校は「健やかに学び合う子」，江田島小学校は「自ら考え，ともに伸びようとする児童の育成」，江田島中学校は「健康で豊かな心と学力を身につけた実践力のある生徒の育成」としている。

３　研究主題

自他ともに大切にする児童生徒の育成

～小中９年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～

（１）　主題設定の理由

令和元年度４月に行った道徳アンケートから，ほとんどの項目で肯定的評価の割合が90%を超える中，「自分にはよいところがある」「自分のよさが周りの人から認められている」という自己肯定感に関する項目への肯定的評価の割合は81.5%，86.6%と低かった。また，「相手のことを思いやり，親切にしている」「人の気持ちがわかる人になりたいと思う」という思いやりに関する項目への肯定的評価の割合は，94.7%と他項目の数値に比べて高いものの，実際の学校生活においては，自己中心的な考えによる友人間でのトラブルが多い，人の失敗を笑うといった課題が見られた。これらの現状と課題を踏まえ，児童生徒の「自己肯定感」「思いやりの心」を育むことを研究の中心に据えた。昨年度の取組内容は，次の３点である。

① 小中での一貫した道徳教育推進体制の整備【推進体制の確立】

②「道徳科」の指導の充実【授業づくり】

（中心発問の吟味，話合い活動の充実，自己を振り返る時間の充実（導入，終末））

③「道徳科」の評価の在り方【評価】

（期待する児童生徒の変容（Before→After）の具体的な姿の設定）

取組の結果，令和元年度12月のアンケート調査では，「自分にはよいところがある」，「自分のよさが周りの人から認められている」という自己肯定感に関する項目の肯定的評価は，84%，86.0%とほとんど数値に変化は見られなかった。しかし，学校生活の中では，小学校では休憩時間の遊び時間やボランティア活動の際，同学年，さらには異学年間においても協力的な声掛けが

できる児童が増えてきたこと，中学校では，合唱祭に向けた練習の際に，歌が苦手な友達に対して，相手を思いやりながら，課題を指摘したり，励ましたりできる生徒の姿が多く見られるようになったことなど，児童生徒の姿から一定の成果が見られた。

また，授業者が児童生徒の発達の段階を意識して主題解釈，教材解釈を行い，「Before→After」の姿を明確にした上で授業実践をすることで，より明確な指導の意図をもった授業展開ができるようになった。一方で，「Before→After」による見取りだけでは，児童生徒の評価が一面的な評価になってしまった。つまり，教師の指導により，どんな児童生徒の変容が見られたのか，という教師自身の授業評価が主観的なものであった。そこで，授業で児童生徒の見取りを丁寧に行うこと，その見取りをもとに客観的な授業評価へつなげるため，授業で児童生徒を評価する視点，その各視点における期待する児童生徒の発言や記述の内容を明確に設定する必要があると感じた。

そこで今年度も，研究主題は「自他ともに大切にする児童生徒の育成～小中９年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～」を継続し，評価の視点を明確にした道徳科の授業改善に重点を置いて取り組もうと考えた。児童生徒を見取る視点を明確にして授業を行うことで，客観的な授業評価へつながり，授業改善を進めていくことができると考えたためである。授業では，話合い活動，導入や終末で自己を振り返る時間を充実させることで，児童生徒が自己の生き方を見つめることにより，自分を受容し，他者の考えから多面的・多角的に学び合うようになり，自他ともに大切にする児童生徒が育っていくだろうと考え，本主題を設定した。

（２） 研究仮説

発達の段階を踏まえ，小中学校の系統的な「考え，議論する」道徳科授業の展開を工夫すれば，共感する力や思いやりの心，協力し合う態度が育ち，自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めさせることができるであろう。

（３） めざす児童生徒の姿

本校区では，研究主題の「自他ともに大切にする児童生徒」を，次のように整理した。

	自分を大切にする姿	他者を大切にする姿
小学校　低学年	・明るく素直な心をもち，よいと思うことを進んで行おうとする姿。	・相手が気持ちよくなる言葉遣いをしようとする姿。
小学校　中学年	・粘り強く努力することで，自分の長所を伸ばそうとし，明るい心で伸び伸びと生活できる姿。	・友達のことを自分のこととして考え，友達と互いを助け合うことができる姿。
小学校　高学年	・自分の長所や短所を認め，自己の向上のための目標をもち，伸長・改善するための努力ができる姿。	・広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し，相手の立場を考えた行動や言動ができる姿。
中学校 １～３年	・自分の考えや気持ち，個性を理解し，それを肯定的に受け止めている姿。 ・自分の理想像をもち，その実現のために（仲間と共に協力して）一歩ずつ努力している姿。	・相手の考えや気持ちを想像し，相手のために自分ができることを考え，行動している姿。

（４） 研究の内容

① 児童生徒の発達の段階を踏まえた授業づくり

・主題解釈，教材解釈の吟味

② ねらいを明確にした指導と評価の一体化

・具体的なねらいの設定

・期待する児童生徒の変容の具体的な姿（Before→After）の設定

③ 評価の視点の明確化

以下は，《授業評価のための基準》である。この中のア～ケまでのうち，本時のねらいに即している視点をその授業の柱として選び，指導案に明記する。

●「道徳的価値の理解を①自分とのかかわりの中で深めているか」

ア　読み物教材の登場人物を自分に置き換えて，「自分だったらどうするかな。」と考えている。

イ　「今までの自分はこうだったけど，変えていこうかな」と行動や考えを見直している。

ウ　自らの考えを持ち，友達と比べて議論する中で，よりよい考え・行動の意味に気付いている。

←「ぼくは，こう思っているんだけど，友達の意見を聞くとそっちの方がいいな。」

エ　その価値理解はできているが，「そうは言っても，自分には，同じようにすることはなかなか難しいな。」と考えている。

●「一面的な見方から②多面的・多角的な見方へと発展しているか」

オ　ある状況の中で，様々な視点からよりよい考え・行動を見つけようとしている。（多面的）

カ　ある状況の中で，異なる立場の人の見方を考えた上で，その場におけるよりよい考え・行動を見つけようとしている。（多角的）

キ　複数の道徳的価値の対立（葛藤）が生じる場面の中で多面的・多角的に考えている。

←「○○してはいけないんだけど，□□してしまうな。」

●「どのような生き方をしたいのか考え，③自己の生き方を見つめているか」

①エから発展して

ク　その価値の難しさを乗り越えて，それが「できるようになりたいな。」と思っている。

②キから発展して

ケ　葛藤が生じる場面で

「けれども，○○することが大切なんだな。これから，そのように生きていきたいな。」と思っている。

（５） 検証の指標

検証の視点	質問項目	結果
① 「授業力向上」に関するアンケートの肯定的回答。	・道徳科の授業では，自分のことを振り返りながら考えている。 ・道徳科の授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしている。	児童生徒の肯定的評価 85%以上（12 月）
② 「自己肯定感」に関するアンケートの肯定的回答。	・自分にはよいところがあると思う。 ・自分のよさが，まわりの人からみとめられていると思う。	

③ 「思いやりの心」に関するアンケートの肯定的回答。	・人の気持ちがわかる人になりたいと思う。 ・相手のことを思いやり，親切にしている。	

（６） 研修計画

※重点内容項目『Ｂ　主として人との関わりに関すること』に絞り，研修を行う。

時期	内　　容	
	研修内容	備考
４月		推進体制づくり
６月	15(月)　江田島中学校授業研３年２組 （堂中教諭，川中教諭） 広島大学大学院人間社会科学研究科教授 宮里　智恵先生来校	道徳アンケートの実施及び分析①
７月	８(水)　江田島中学校授業研２年１組 （市川教諭，川中教諭） 広島県教育委員会　義務教育指導課 藤本　哲平指導主事来校 広島県西部教育事務所　教育指導課 宮岡　大輔指導主事来校	
９月	17(木)　江田島中学校授業研１年１組 （川本教諭，川中教諭） 18(金)　切串小学校授業研５年１組（天野教諭） 広島県教育委員会　義務教育指導課 藤本　哲平指導主事来校 広島県西部教育事務所　教育指導課 宮岡　大輔指導主事来校 兼　江田島市道徳教育推進協議会	
11 月	24(火)　江田島小学校授業研４年１組 （坂倉教諭，川中教諭） 江田島市教育委員会　学校教育課 河野　諭恵主任指導主事来校	
12 月		道徳アンケートの実施及び分析②
１月	19(火)　江田島中学校授業研 １年２組（後藤教諭，長田教諭） ２年２組（岡林教諭，金岡教諭） 広島県教育委員会　義務教育指導課 藤本　哲平指導主事来校 広島県西部教育事務所　教育指導課 宮岡　大輔指導主事来校 兼　江田島市道徳教育推進協議会	
２月		今年度のまとめ作成
３月		来年度の計画・立案

取組の実際

１　授業構想

（１）　主題解釈（主題を学ぶ意義）

１０月１４日，切串小学校での授業研究後の講話では，広島大学大学院人間社会教育科学研究科教授　宮里智恵先生より，主題解釈について指導していただいた。主題解釈は，以下の３点について順に行った。

①この主題はなぜ大切か。

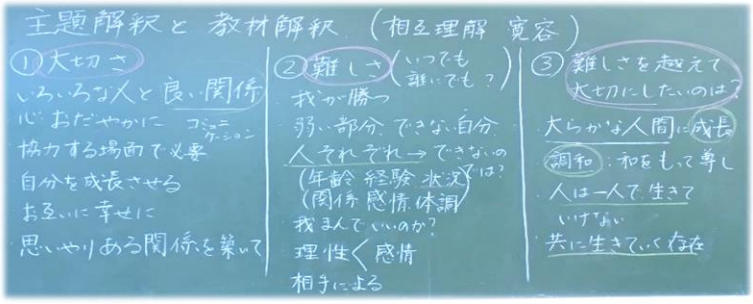
②この主題の難しさは何か。（いつでも誰にでもできるか）

③難しさを越えて大切にしたいのはなぜか。

主題についての解釈を深めている様子

①～③について，授業者が，自分の言葉で明確にしておくことが大切であることを学んだ。

主題について協議する様子



主題解釈を終えた板書

○　相互理解，寛容（右上）

○　友情，信頼（右）

（２）　教材解釈（その教材の活用方法）

教材文を読むにあたり授業者は，主人公は誰か，置かれている状況はどうか，心情や状況は変容しているか，どのように変容しているか，変容のきっかけは何か，など教材分析しながら読む。この時，（１）で述べた主題を念頭に置きながら読むことが大切である。児童生徒の実態を踏まえ，児童生徒に最も考えさせたい箇所，児童生徒が最も考えを深められそうな箇所を見定める作業を行い，教材の持つ意味の解釈やその活用方法を明らかにしていく。授業者が，主題の捉えと教材の捉えを明確にしていくことが，軸のぶれない授業構想につながっていく。

（３）　指導案の書き方

指導案には一貫した筋があり，読み進めることによって授業者の思いとともに，気付かせた

い道徳的価値について考えることができる。ねらいは，『○○を通して，～に気付き（～を理解し），～しようとする□□を育てる。』の形で記述する。○○には，本時の中心発問における学習活動，□□には，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度のうち，いずれかを明記する。この「ねらい」が，児童生徒のゴールの姿を示すものであるため，指導案は，児童生徒をゴールの姿へ導くために書き進める。

次に，「主題観」には，学習指導要領の「内容項目の概要」と「内容項目の指導の観点」を参考に，この内容項目で考えさせるべき点や，その主題がなぜ大切なのか，生きていく上でどのような意味があるのか，について授業者の捉えを，授業者の言葉で具体的に記述する。ただし，同じ内容項目においても小学校低・中・高，中学校の各学年において，その指導目標は異なるため，児童生徒の発達の段階を考慮する必要がある。

「児童生徒観」には，日頃の観察やアンケートをもとに，「主題観」に対する児童生徒の実態を考察し，記述する。

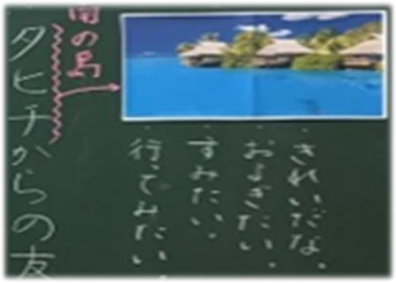
「指導観」には導入，展開，終末のどのタイミングでどのような学習活動を行うのか，なぜその学習活動を行うのかを具体的に記述する。また，授業前の児童生徒の実態を「Beforeの姿」，授業後に期待する児童生徒の姿を「Afterの姿」として明記し，授業者が明確な指導の意図を持って授業ができるようにする。

切串小学校にて
Zoom を活用したリモートでの指導案検討
（広島大学　教授　宮里智恵先生と）

2　授業実践

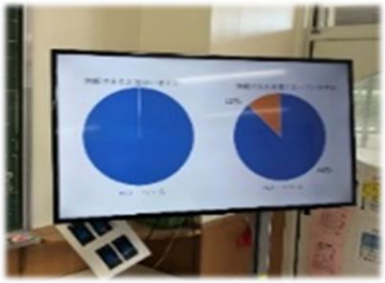
（1）　導入の工夫

導入は，本時で扱う道徳的価値について，学習の構えをつくったり，問題意識を持たせるなど，意識付けや方向付けを行う段階である。実物の写真提示，教師の演技による提示，事前アンケートの提示といった方法がある。いずれも情報過多にしないこと，時間をかけすぎないことが大切である。



＜実物の写真提示＞

＜教師の演技＞



＜アンケート提示＞

（2）　自分の考えを持たせる工夫

話合い活動を通じて道徳的価値について考えを深めていくために，まずは児童生徒に自分の

考えを持たせることが大切である。そのために，「賛成・反対」など，登場人物が葛藤する場面，二者択一の考えが持たせそうな場面で，ネームプレートや心情円盤等を活用し，児童生徒自身に意思表示をさせた。この後，中心発問につなげ，道徳的価値について考えを深めていくため，意思表示をさせるだけではなく，その理由についても問うておくことが大切である。

■事例① ネームプレートの活用

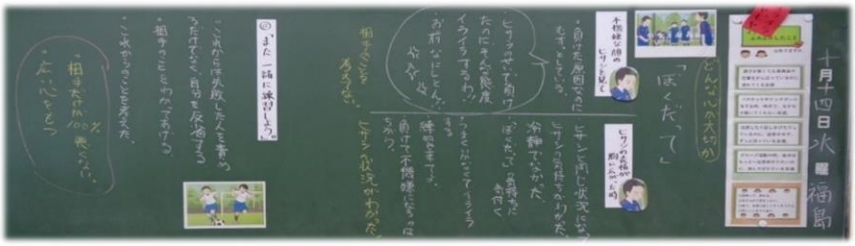
江田島中学校 第１学年 主題名：本当の友達（B−８友情，信頼）教材名：「五月の風−ミカ−」

○：意思表示をさせたことで，自分の考えや友達の考えが明確になり，中心発問以降で考えを深めていくことにつながった。

▲：ネームプレートを貼った位置について，その理由を問うたのはよかったが，それを展開後半で活用すればよかった。

■事例② 心情円盤の活用

切串小学校 第６学年 主題名：相手を理解する心（内容項目 B−11相互理解，寛容）教材名：「ぼくだって」

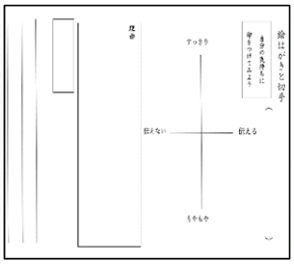
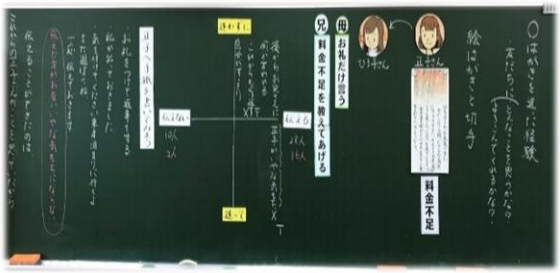


○：話合い活動の際，お互いの心情円盤を見合いながら，興味をもって指名し合うなど，話合いを活発にしていく点で効果的だった。

▲：前の表示を残すことができないので，児童の考えの変容を見取りにくかった。
→全体の意見として，代表的なものを黒板に残せば良かった。

■事例③ ４象限マトリクスの活用

江田島小学校 第４学年 主題名：友達のことを考えて（内容項目 B−９友情，信頼）教材名：「絵はがきと切手」

○：ワークシートに４象限を準備し，考えを書かせたことで，児童の意見が明確になり，その後のペアや全体での活発な意見交流につなげることができた。

▲：４象限に書かせた部分で，「伝えない」と書いた児童に対して，意見を聞かずに進めてしまったため，ひろ子が迷う気持ちを考えさせにくくなってしまった。「伝える」「伝えない」両面の考えを十分に引き出しておく必要があった。

（３） 話合い活動を充実させる工夫

① 座席配置の工夫

児童生徒同士，互いの顔が見える座席配置にすることで，互いの表情や身振り，手振りを見て話す・聞くことで互いの考えが伝わりやすくなる。話合いの際には，授業者は，児童同士の意見をつなぐこと，ある一人の考えを全体に返して考えさせるなど，全体をファシリテートする意識をもつことも大切である。

② ホワイトボードの活用

児童生徒同士の話合い活動を充実させ，道徳的価値について考えを深めるため，ホワイトボードの活用も有効であった。中心発問以降，道徳的価値について考えを深める発問において，活用した。まず，真ん中にキーワードを書く欄を設け，人数分，書く欄を等分する。次に，３分程度で班の児童生徒が同時に個の考えを書き込み，さらに５～７分程度で個の考えを基に，キーワードを決めさせる。発表の際には，キーワードとともに，どんな話合いをしたのか，そのキーワードになった理由についても発表させた。この話合い活動の後に，道徳ノートやワークシートへ個人の考えをまとめさせることで，さらに道徳的価値について考えを深めさせることができた。

③ 学習規律の統一

今年度７月，中学校区で「友達の話は体を向けて聞く」「学びのスタートは友達の意見を認めることである」ことを確認し，意識統一して授業改善の取組を進めた。特に，全体発表の際に，発表者に体を向けて話を聞くことに継続して取り組んだことは，話合い活動の中でも互いの意見を聴く，認める雰囲気が醸成されてきていることにつながっていると考えている。

（４） 終末の工夫

終末は，ねらいにある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして，今後の発展につなぐ段階である。教師による説話，詩や偉人の言葉の提示，ノートやワークシートに振り返りを書かせる，歌や音楽を聴かせる等の方法がある。

＜教師の説話＞

＜偉人の言葉の提示＞

＜ノートへの振り返り＞

（５） 発達の段階に応じた指導の工夫

児童生徒が教材から登場人物の心情を理解したり，それぞれの思考を整理・表現したりするために，授業の中で様々な手立てが必要になる。手立てについては，教材の内容や学級の雰囲気，発達の段階に応じて，授業者が手法を選択していく必要がある。また，各学年の発達の段階だけでなく，学級内でも，児童生徒の発達の段階は異なるため，個人に応じた手立てについても考える必要がある。

① 動作化，役割演技

登場人物になり切って，その場面を演じさせる。頭の中で考えるよりも，その場その場で感じたことを語らせるので，反射的な素の言葉が出やすい。その中で，気を付けなければならないことは，演じることが目的にならないようにするとともに，どこを動作化させるかを選定することである。小学校１年生の「はしのうえのおおかみ」では，ラインテープで教室に線を引き，一本橋を渡らせる工夫を行った。なお，より一層の演技を引き出すため，橋の下の谷の危うさを感じさせることも効果的である。

うさぎを抱えるきつねの役割演技
（小１年）

動作化や役割演技には，二通りの役割があり，一つは登場人物の心情を実感させるというもの。もう一つは，教材内容を理解させるというものである。どちらも効果的に活用できるように，目的を明確にして取り入れる必要がある。また，発問についても，「今，どんな気持ちですか？」のように，児童生徒を登場人物になり切らせて語らせる発問を心がけることが大切である。

② 心情変化の可視化

教材を読み進める中で，登場人物の心情の変化を捉えてから中心発問に向かうことが重要である。また，心情の変化を確認する中で，児童生徒間で感じ方や考え方にずれがある場合には，そ

の理由を議論させ，心情理解を深めることができる。心情変化を可視化させるために，ハートを黒板の上下に移動させながら貼る方法や，心情円盤を個人で持たせて表現させる方法に取り組んだ。

ハートの高さで心情変化を表現させると，場面ごとで登場人物の心情がクラスで共有させる良さがある。その変化を追うと，心情理解が深まり，中心発問で問われている状況が明確になる。ただ，全員のハートを板書に残す場合，それぞれに名前を残しておくと，個の児童生徒の変容が見えやすくなる。また，気持ちの高まりを表すには，ハートの上げ下げだけでなく，ハートの数を増やすことや同心円で膨らませるなどの方法も考えられる。

心情円盤を個人に持たせると，一人ひとりが自分の意思を表示できるので，全員の参加意識が高まる。また，自分と同じ考えの人が誰か，大きく異なる意見の人が誰かということが可視化されるので，児童生徒のそれぞれが誰の意見が聞きたいか，関心を持たせながら話し合いを進めることができた。反面，心情円盤で意思表示させるだけでは，その結果が記録に残らないので，個人で持つだけでなく板書やワークシート等に残す必要があった。

ハートの上下での心情の可視化
（左：小５年，右：小３年）

心情円盤を示した話し合い
（小６年）

③ 提示物の工夫

視覚や聴覚等の五感に訴える提示物は，大いに児童生徒の興味関心を引く。それだけに，インパクトが強く，教材の世界に引き込む力がある。１年生「はしのうえのおおかみ」では，担任よりも大きな模造紙に描かれている大きなくまさんを提示することで，大きくて怖い印象を児童に持たせることができた。また，２年生「くりのみ」では，生活科の町たんけんの途中に拾った「くりのみ」を提示することで，教材への関心を高めることができた。また，CDで北風の音を聞かせることで，寒くて凍える冬の情景を思い浮かべさせることができた。「食べ物がないから，命に関わる」と発言する児童さえもいた。このように，五感を刺激する提示物は，児童生徒の発達の段階に応じて，大いに活用していく価値がある。

大きなくまの提示（小１年）

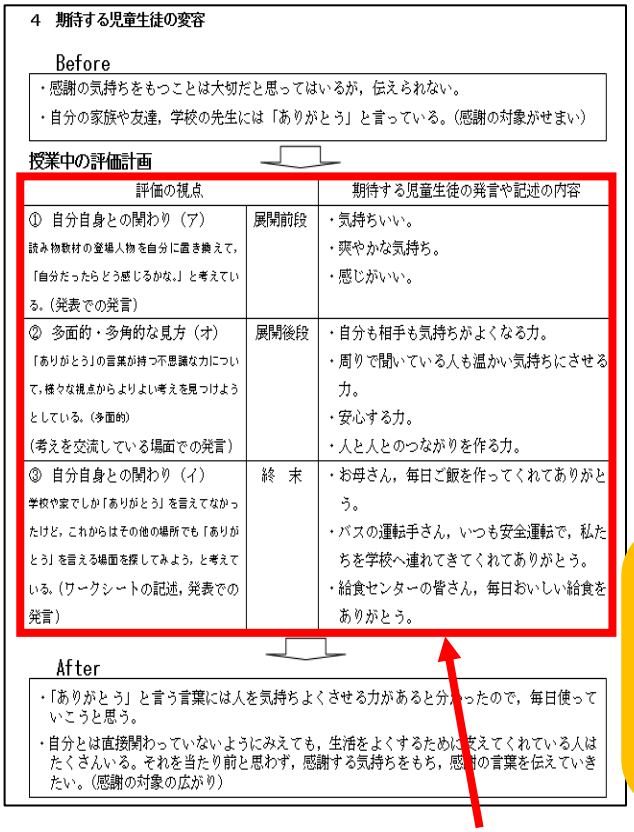
3　評価の視点を明確にした授業づくり

（1）　児童生徒の道徳性の見取りについて，共通理解を進めるための工夫

授業参観者が，児童生徒の学習状況を見取る視点について共通理解できるよう，指導案の「授業中の評価計画」に対応させ，授業参観シートを作成した。そこには，参観者が各視点における期待する児童生徒の発言や記述が見られたかどうかの評価（◎，○，△），授業者へのコメントを記入できるようにしている。複数の授業参観者からの評価やコメントから，授業者自身が客観的に授業の成果と課題を振り返り，授業改善へとつなげることができた。その他，授業の軸がぶれにくくなる，児童生徒の見取りがしやすくなったことにより，学習状況の評価がしやすくなる，一つひとつの発問を，「自分との関わりの中で考えさせるのか」「多面的・多角的に考えさせるのか」発問の意図が明確になる，といった効果もあった。

■授業の中での見取り

ア　授業中の評価計画の作成



4　期待する児童生徒の変容

Before

・感謝の気持ちをもつことは大切だと思ってはいるが，伝えられない。
・自分の家族や友達，学校の先生には「ありがとう」と言っている。（感謝の対象がせまい）

授業中の評価計画

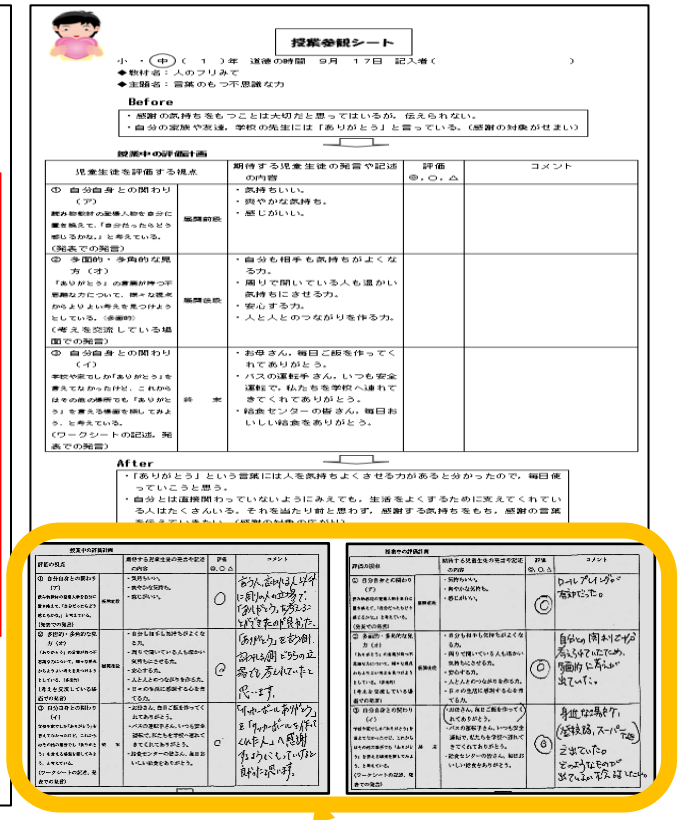
評価の視点		期待する児童生徒の発言や記述の内容
① 自分自身との関わり（ア） 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて，「自分だったらどう感じるかな。」と考えている。（発表での発言）	展開前段	・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。
② 多面的・多角的な見方（オ） 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について，様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。（多面的） （考えを交流している場面での発言）	展開後段	・自分も相手も気持ちがよくなる力。 ・周りで聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。
③ 自分自身との関わり（イ） 学校や家でしか「ありがとう」を言えてなかったけど，これからはその他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう，と考えている。（ワークシートの記述，発表での発言）	終　末	・お母さん，毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん，いつも安全運転で，私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん，毎日おいしい給食をありがとう。

After

・「ありがとう」と言う言葉には人を気持ちよくさせる力があると分かったので，毎日使っていこうと思う。
・自分とは直接関わっていないようにみえても，生活をよくするために支えてくれている人はたくさんいる。それを当たり前と思わず，感謝する気持ちをもち，感謝の言葉を伝えていきたい。（感謝の対象の広がり）

期待する児童生徒の発言や記述内容の想定

イ　授業参観シートの作成と活用



授業参観シート

小・（中）（　1　）年　道徳の時間　9月　17日　記入者（　　）
◆教材名：人のフリみて
◆主題名：言葉のもつ不思議な力

Before

・感謝の気持ちをもつことは大切だと思ってはいるが，伝えられない。
・自分の家族や友達，学校の先生には「ありがとう」と言っている。（感謝の対象がせまい）

授業中の評価計画

児童生徒を評価する視点		期待する児童生徒の発言や記述の内容	評価 ◎，○，△	コメント
① 自分自身との関わり（ア） 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて，「自分だったらどう感じるかな。」と考えている。（発表での発言）	展開前段	・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。		
② 多面的・多角的な見方（オ） 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について，様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。（多面的） （考えを交流している場面での発言）	展開後段	・自分も相手も気持ちがよくなる力。 ・周りで聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。		
③ 自分自身との関わり（イ） 学校や家でしか「ありがとう」を言えてなかったけど，これからはその他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう，と考えている。（ワークシートの記述，発表での発言）	終　末	・お母さん，毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん，いつも安全運転で，私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん，毎日おいしい給食をありがとう。		

After

・「ありがとう」という言葉には人を気持ちよくさせる力があると分かったので，毎日使っていこうと思う。
・自分とは直接関わっていないようにみえても，生活をよくするために支えてくれている人はたくさんいる。それを当たり前と思わず，感謝する気持ちをもち，感謝の言葉を伝えていきたい。（感謝の対象の広がり）

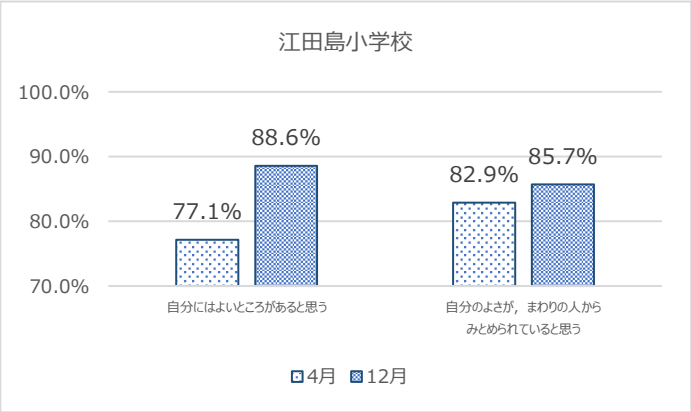
授業参観者による記録

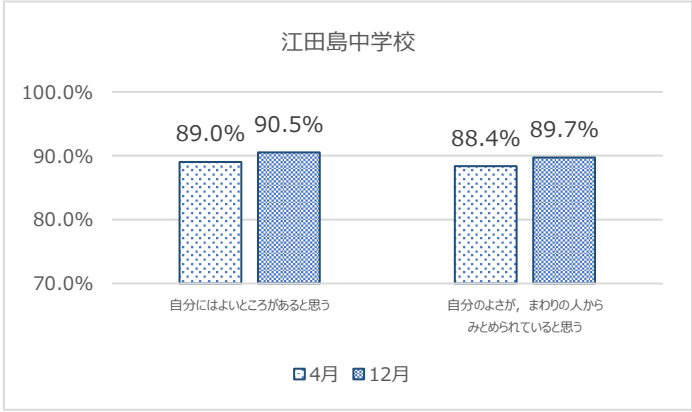
取組の検証

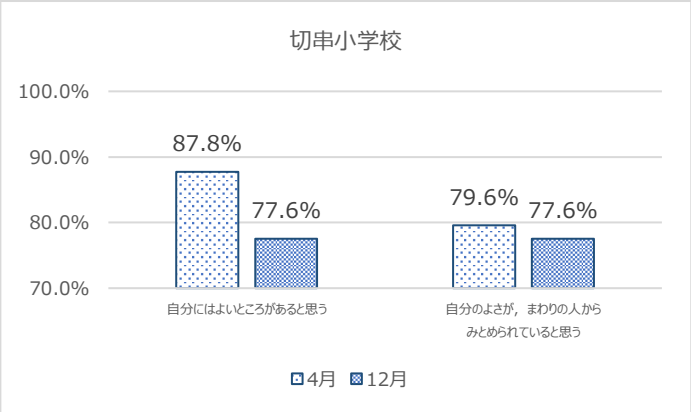
1　児童生徒アンケートより

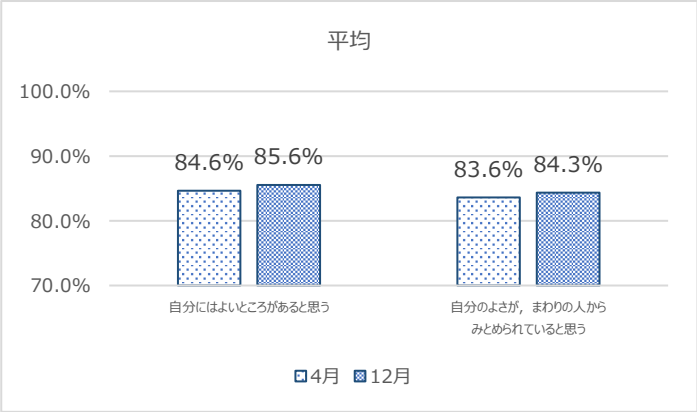
「道徳教育改善・充実」総合対策事業で指定校が実施する児童生徒アンケートにおける，今年度４月と 12 月の結果を比較した。グラフ右の数値は，肯定的回答をした児童生徒の割合である。

（ア）「自己肯定感」に関する項目

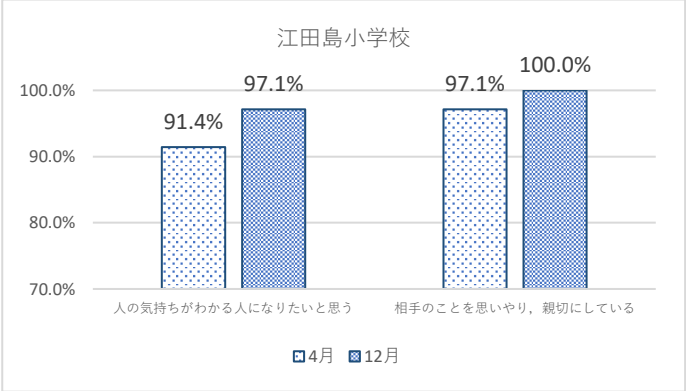


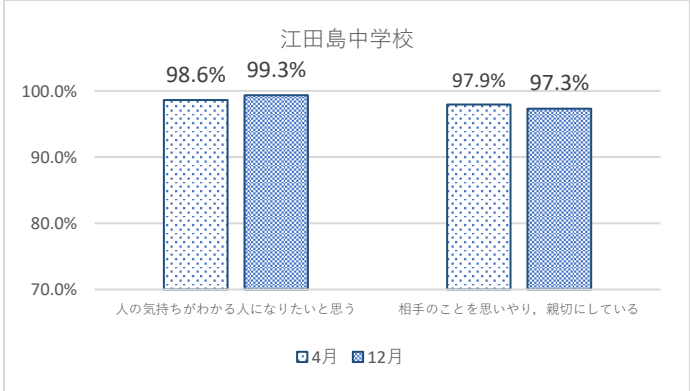


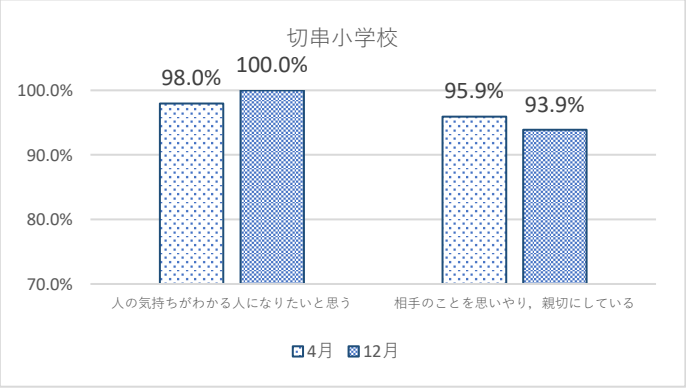


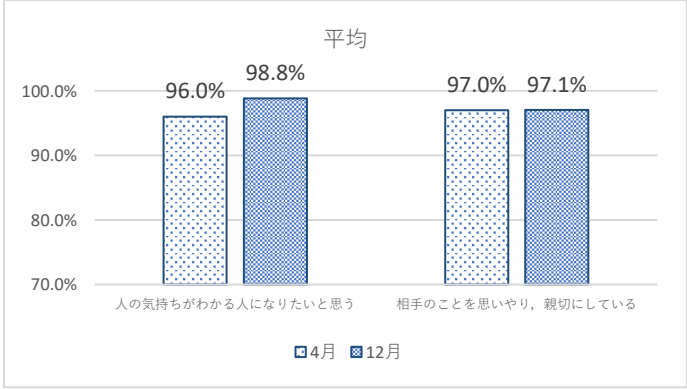


（イ）「思いやりの心」に関する項目

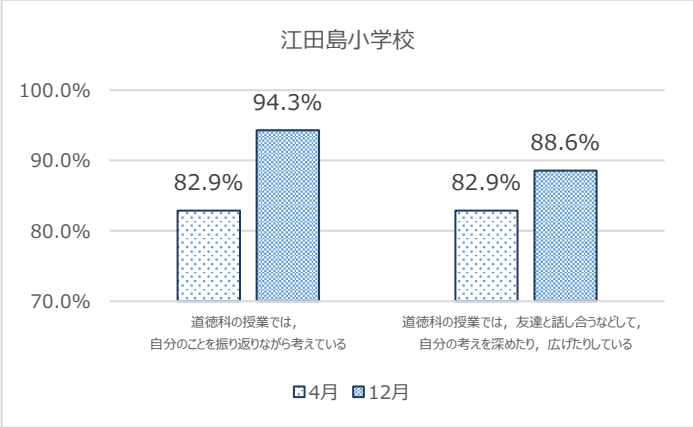


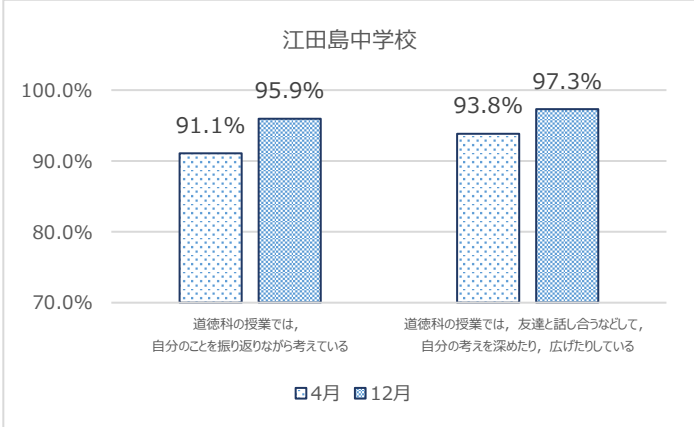


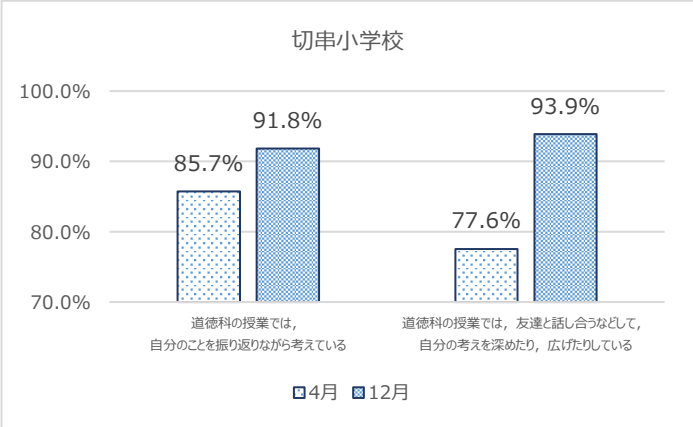


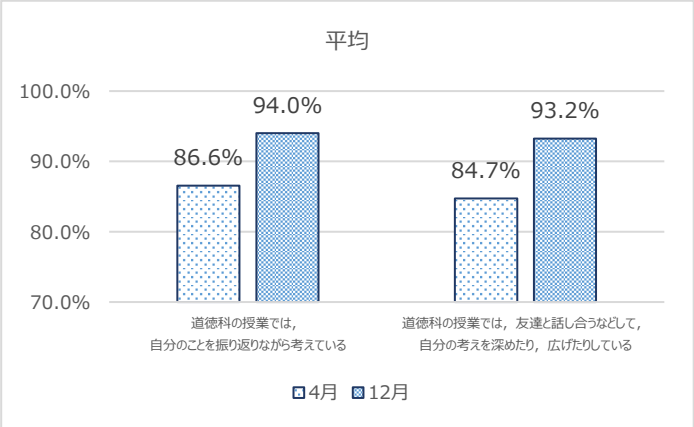


（ウ）「道徳科の授業」に関する項目









2　今年度の道徳の授業に関するアンケートより

授業の中で，「自己肯定感」「思いやりの心」を育むことはできたのかを定性的に見取るため，12月に，中学生を対象に，道徳の授業に関するアンケート調査を行った。以下は，各アンケート項目と，それぞれに対する生徒の回答である。

（1）「自己肯定感」に関する項目

① 授業におけるペアや班での話し合いの中で，「自分にはよいところがある」と感じたり，思ったりした場面はありましたか。それはどんな場面ですか。

・明確な根拠を持って，自分の意見を表現できた時。
・自分が積極的に話合いに参加できた時。
・自分の意見を，友達に積極的に伝えることができた時。
・友達を助けて，自分が役に立っていると感じた時。
・友達が，自分の意見を「いいね！」と褒めてくれたり，認めてくれたりした時。
・友達が，自分の意見をしっかり聞いてくれた時。

② 授業におけるペアや班での話し合いの中で，「自分のよさがまわりの人から認められている」と感じたり，思ったりした場面はありましたか。それはどんな場面ですか。

・友達とお互いに褒め合った時。

・友達が，あいづちを打ちながら，自分の意見を聞いてくれた時。
・友達が，自分の意見に共感してくれた時。

（２）「思いやりの心」に関する項目

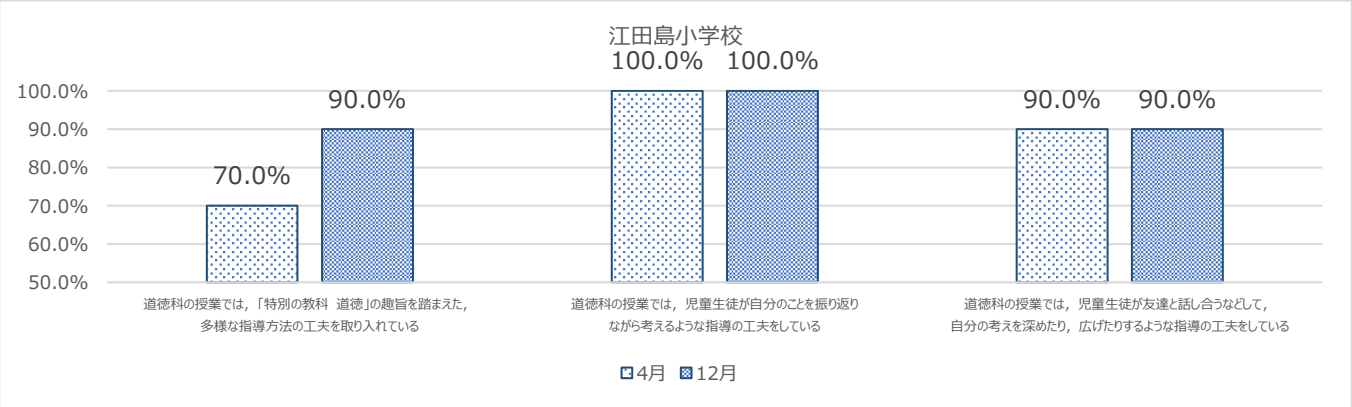
① 授業におけるペアや班での話し合いの中で，もっと相手の考えや気持ちを想像していきたいと思ったことはありましたか。それはどんな場面ですか。
・友達の考えが，自分の考えと違うことに気付いた時。
・その人の考えに共感できた時。
・友達の考えから，「そういう考え方もあるんだな」と新しい発見があった時。

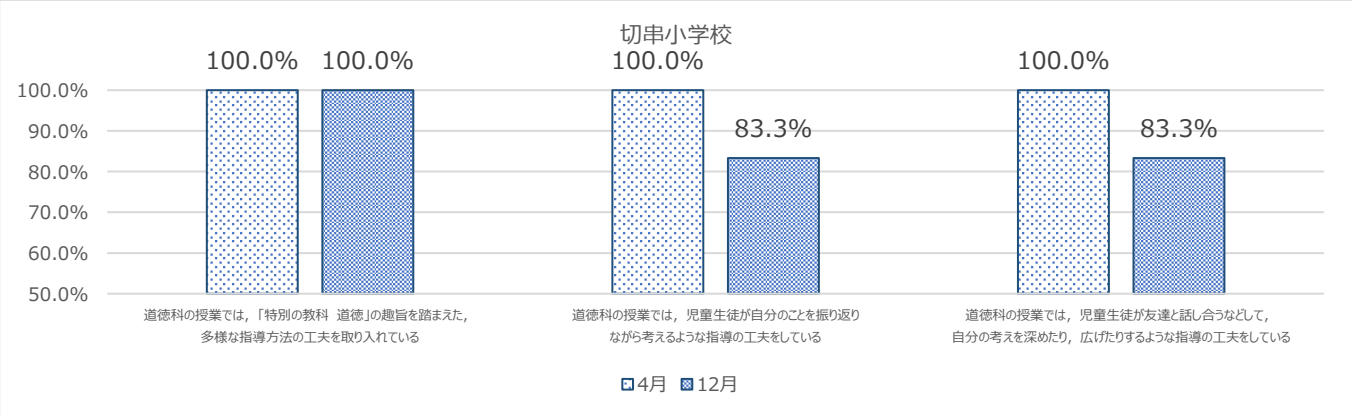
② 授業におけるペアや班での話し合いの中で，相手のために自分ができることを考えたいと思ったことはありましたか。それはどんな場面ですか。
・友達が，意見がまとまらず，困っている時。
・もっと意見を深めたいなと思う時。
・班での話合いで，考えが深まっていった時。

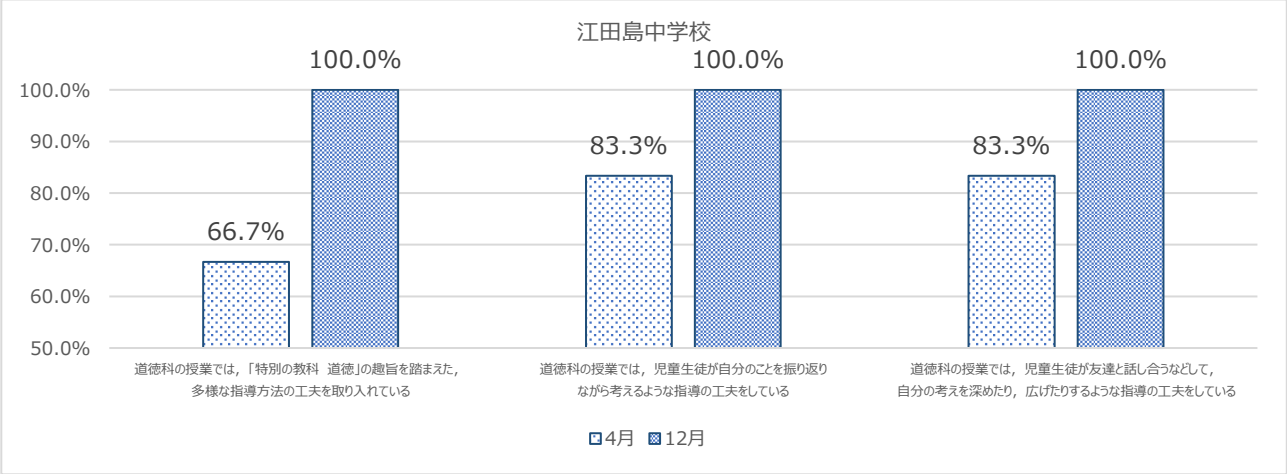
３　教職員アンケートより

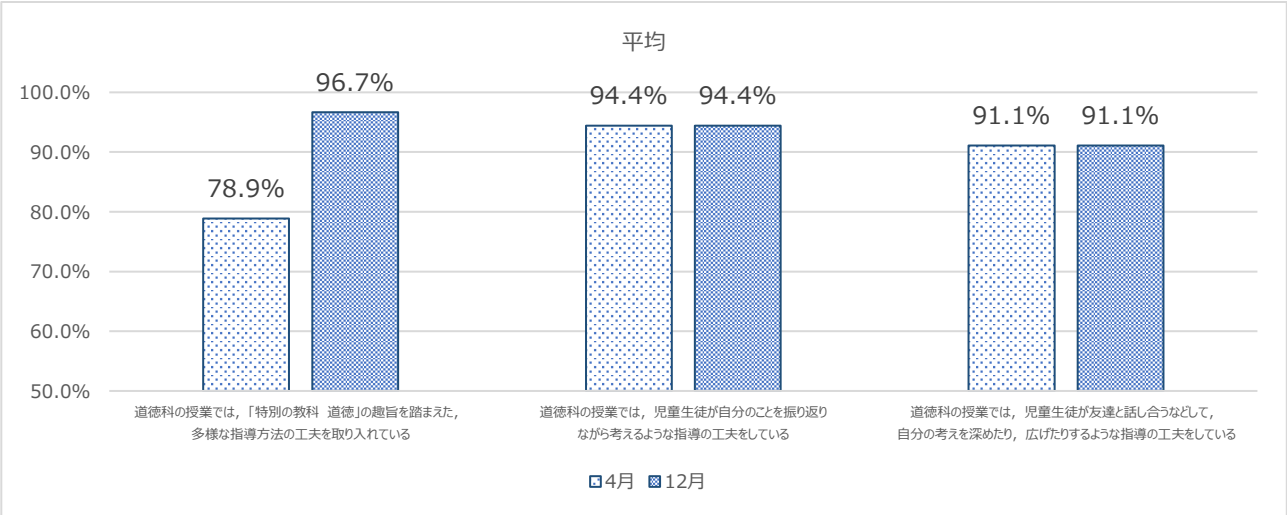
「道徳教育改善・充実」総合対策事業で指定校が実施する教職員アンケートにおける，今年度４月と 12 月の結果を比較した。グラフ右の数値は，肯定的回答をした教職員の割合である。

（エ）「道徳科の授業」に関する項目「教職員の変容」









成果と課題　○成果　●課題

○　児童生徒アンケートにおいて，江田島小学校，江田島中学校では，（ア）「自己肯定感」に関する全ての項目で 1.3～11.5%数値が上昇した。中学校区で「友達の話は体を向けて聞くこと」に継続して取り組んだことや，ペアや班での話合いの中で他者に自分の考えを表現できた，あるいは自分の考えを他者から認めてもらった経験の積み重ねが，「自己肯定感」の向上につながっていると考察する。

○　児童生徒アンケートにおいて，（イ）「思いやりの心」に関する項目で，学校ごとに数値変化に差はあるものの，全体としては概ね上昇傾向にある。校区で「友達の話は体を向けて聞くこと」に継続して取り組んだこと，ペアや班での話合いの中で，他者の考えに共感できたり，新しい考えを知ったりする経験の積み重ねが，思いやりの心の醸成につながっていると考察する。

○　児童生徒アンケートにおいて，（ウ）「道徳科の授業」に関する全ての項目で 3.5～16.3%数値が上昇した。座席配置の工夫，ホワイトボードの活用等，指導方法の工夫を取り入れ，話合いを通じて道徳的価値について考えを深める活動を充実させてきた結果だと考察する。

○　授業での振り返りから，「自他ともに大切にする」ものの見方や考え方といった姿勢が身に付いている児童生徒の姿が，多く見られるようになった。集団での活動においては，それを発揮し，実践することができている。

○　教職員アンケートにおいて，小中学校３校を平均すると，（エ）「道徳科の授業では，「特別の教科

道徳」の趣旨を踏まえた，多様な指導方法の工夫を取り入れている」の項目で，17.8%数値が上昇した。新学習指導要領の趣旨を踏まえ，児童生徒の学習状況を見取る視点を明確にした授業づくりや，多様で効果的な指導方法の工夫について授業実践を積み重ねてきたことが，数値上昇につながったと考察する。

○　学習指導案に「授業中の評価計画」を明記したり，授業参観シートを作成したりすることにより授業者と授業参観者が共通の視点で児童生徒の学習状況を見取ることができ，児童生徒の道徳性の見取りについて教職員で共通理解を進めることができた。

●　児童生徒アンケートにおいて，切串小学校では，（ア）「自己肯定感」（イ）「思いやりの心」に関する項目で，数値が減少傾向にある。「友達の話は体を向けて聞くこと」に継続して取り組むとともに，ペアや班での話合いの中で，他者に自分の考えを表現する，自分の考えを他者から認めてもらう活動を充実させていくことが必要だと考える。また，少人数学級で，多様な考えに触れることが難しく，考えを広げにくいという実態を踏まえ，教師が児童にない多様な意見や考えを伝える等，新しい意見や考えに出会わせる機会を充実させることも大切だと考える。

●　集団での活動においては，「自他ともに大切にする」ものの見方や考え方を実践に移せているが，個々の活動において，実践に移せていない児童生徒がいることに課題が残っている。

●　さらに児童生徒の「自己肯定感」「思いやりの心」を育んでいくためには，授業づくりだけではなく，学校の全教育活動を通して道徳教育を推進していく必要がある。そのために，各教科等と道徳科を関連付けるなど，カリキュラム・マネジメントを意識した取り組みを進めていく。

【指導・助言者】

広島大学大学院　人間社会科学研究科　教授　　宮里　智恵　先生

広島県教育委員会　義務教育指導課　指導主事　　藤本　哲平　先生

広島県西部教育事務所　教育指導課　指導主事　　宮岡　大輔　先生

江田島市教育委員会　学校教育課　主任指導主事　河野　諭恵　先生

ご指導ありがとうございました。